

すい さん けん きゅう きょう いく き こう ニュース レター
水産研究・教育機構 NEWS LETTER

かわらばん

No.

132

2026.9

おすかな瓦版



おいしいだけじゃない?
卵たまごを守るお父さんまもとう



ホッケ



バックナンバーは
こちらから



ふーちゃんのトピックス

からだ いろ か さかな
体の色を変える魚たち



ホッケ

おいしいだけじゃない？

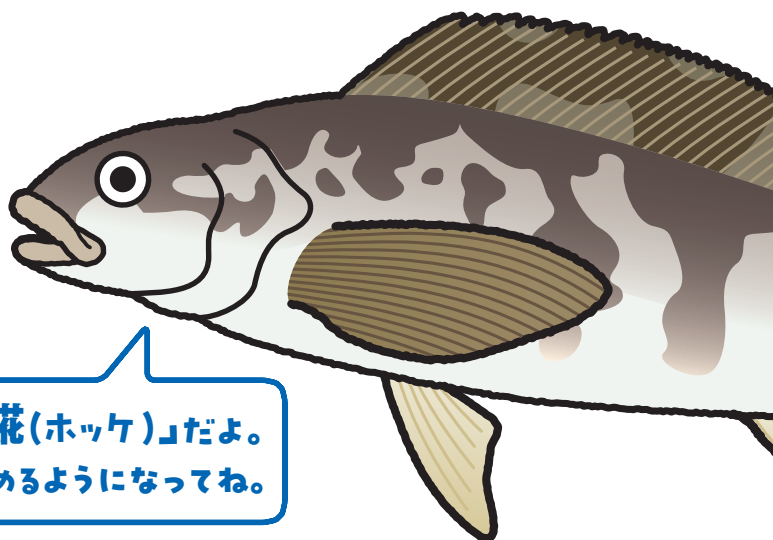
卵を守るお父さん

ホッケってどんな魚？

「一夜干し」や「開き」で有名なおいしい魚です。

また、漢字で「魚」へんに「花」と書くことからわかるとおり、見た目もとてもきれいな魚です。

「鱚(ホッケ)」だよ。
よ読めるようになってね。

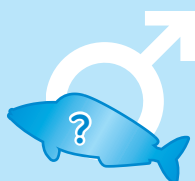


オスに注目！産卵シーズン



体の色の変化

秋から冬にかけてがホッケの産卵シーズンです。この時期のオスは体が白っぽくなり、頭としっぽの先は黒っぽく変化します。このように繁殖期に変わる色を婚姻色といいます。



▲婚姻色のオス(体は白く、頭としっぽの先は黒っぽく変化)とメス

お父さんは命がけで卵を守る

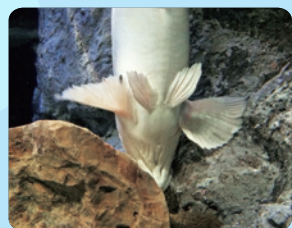
水深20～50メートルの岩場で婚姻色の出た、頭やしっぽが黒っぽいオスがなわばりを作り、そのなわばりにメスが来て岩のすき間に卵を産みます。この卵の塊を卵塊と呼びます。そしてオスが自分のなわばりにあるいくつかの卵塊を、ふ化するまで他の魚などから守ります。

さらに、卵塊に息を吹きかけるようにして新鮮な海水を届けます。

このように熱心に世話をするので、ふ化するまでの1か月半～2か月の間、オスはほとんどエサを食べません。



▲オス同士のにらみあい

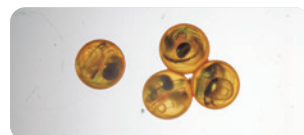


▲岩場にある卵塊を守るオス

色もすむ場所も変化！

卵からの成長過程

卵
(約2ミリ)



0日齢
(約1センチ)



7日齢



21日齢

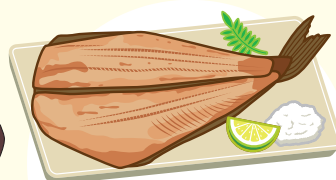


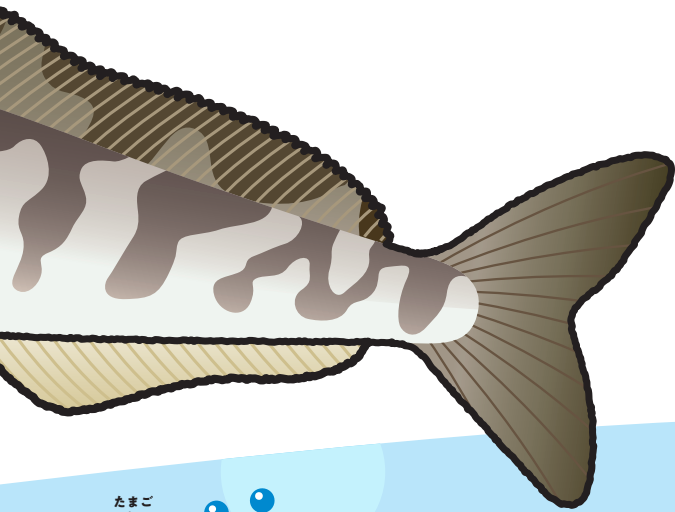
数か月
「アオボッケ」



あんじいの豆知識

「マボッケ」と「シマホッケ」





日本だと、どこにいるの？

日本では、北海道を中心に、太平洋側では茨城県よりも北、日本海側では富山湾までの北の海にいます。水深150メートルくらいまでの海底でくらしています。

「鰹(魚がどの深さでも沈まず浮かんでいられるように、体の中でふくらんだりしぼんだりして浮き輪のような役割をする袋)がないので、水中で泳ぎ続けるより海底にいる方が楽な魚です。」

●卵～

卵の大きさは約2ミリ、ふ化した時の大きさは約1センチです。

ふ化してから数か月は、まるでサバやブリなどの稚魚のように青っぽい色をしているため、「アオボッケ」と呼ばれています。これは、この時期には海面近くを泳いでいて、敵に見つかりにくくするためだと考えられています。

●9か月～海底へ

ふ化して9～10か月後には18センチくらいに成長して海底生活になり、体の色も茶色っぽく変化します。1年で23センチくらい、2年で26～28センチに成長して2年の秋には卵を産めるようになります。卵を産んだ後も少しずつ成長し、3年で28～32センチ、4年で30～35センチになります。寿命は8～9年です。

ホッケは、オキアミ類、カイアシ類、ヨコエビ類などの動物プランクトンを食べていることが多いですが、魚、イカ類なども食べています。

動物プランクトンを ゲットする、ホッケ柱？



春になるとホッケはたくさん集まって群れになって泳ぎ、海面から少し下までぐるぐるとしたうずを作ります。このうずの中には、ホッケのエサとなる動物プランクトンが巻き込まれて集まります。そして高さ約20メートルにもなる柱状の「ホッケ柱」ができます。

普通、海面近くにいると海鳥などの敵におそわれやすくなりますが、大きな群れで海中にうずを作ることによって敵からおそわれにくくなるうえに、海面近くの動物プランクトンをたっぷり食べられます。実際、春の調査でとれたホッケのおなかの中には、動物プランクトンがいっぱい入っていることがあります。



おしえてくれたのは？



もり たしょうこ
森田 晶子さん

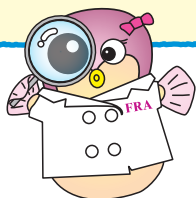
正式名称：スーパーなどで見かける「マボッケ」と「シマホッケ」は、開いた形で見るとよく似ておる。

じゃが実は違う種類の魚で、マボッケは「ホッケ」、シマホッケは「キタノホッケ」が正式名称じゃ。

キタノホッケは主にオホーツク海からベーリング海にかけてすんでおり、干物にするために輸入されているのじゃ。

味と体の模様の違い：どちらもおいしい魚じゃが、「シマホッケ」の方が脂がのって、体に縞もようがあるのが特ちょうじゃ。

「シマホッケ」は開きをひっくり返してみると、その縞もようを見ることができるとのじゃ。



ふーちゃんのトピックス

からだ いろ か さかな 体の色を変える魚たち



今回取り上げた「ホッケ」のように、さまざまな理由で体の色を変える魚がいます！

ホッケのようにオスの体の色が変わることが多いですが、川魚のウグイは、卵を産む時期になると銀色だった体に赤っぽい線が3本見えるようになります。オスはメスより赤色が濃くなり、追星と呼ばれるボツボツも見えるようになります。

サケは、産卵シーズンになると銀白色から黒っぽい色に変化して、体にもようが出来ます。それを「ブナケ」と呼びます(写真左)。さらにオスは鼻先が少し曲がります。



▲ブナケ(産卵シーズンのオスのサケ)



▲産卵シーズンで色づいたウグイたち

おも いろ か さかな 思いどおりに色を変える魚たち

海底にすむ魚(底魚)の中には、周りの色に合わせて体の色を変えて、敵から身を守る魚がいます。その色を保護色と言います。

底魚であるヒラメは、明るい場所では明るく、暗い場所では暗い色になります。また、砂の上では砂もよう、小石が混じった場所の上では小石もようになります。

このように、子孫を増やすため、身を守るため、さまざまな理由で魚は体の色を変化させます。

切って はって 作ってみよう! オリジナルペーパークラフト

作るときのポイント \今回はホッケ!

- 1 しっぽから頭にむけて作っていきましょう!
- 2 頭は別で作って、さいごに体とくっつけよう!
- 3 頭と体は、上と下2カ所でのりづけしよう!



完成図

A4サイズにプリントして作ってみてね



のうりん すいさんしょう し
農林水産省からのお知らせ



ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です

あんじい



あんじい仙人のもとで修行している研究員です

ふーちゃん ふつくん

アンケートの
お願い



おさかな瓦版をより良くするためにアンケートを実施しています。
ご協力をお願いします。

<https://forms.cloud.microsoft/r/MR4uNWU5D0>



おさかな瓦版 No.132 (2026年9月発行)

編集・発行: 国立研究開発法人 水産研究・教育機構

質問の送り先・お問い合わせ先: 広報課

〒221-8529 横浜市神奈川区新浦島町一丁目1番地25

GRC横浜ベイリサーチパーク 6階

TEL.045-277-0136 FAX.045-277-0015

ウェブサイト <https://www.fra.go.jp/>

令和8年度から、年4回の発行に変更となりました。

見てね!



水産研究・教育機構 (FRA)

キッズページ

<https://www.fra.go.jp/forkids/>



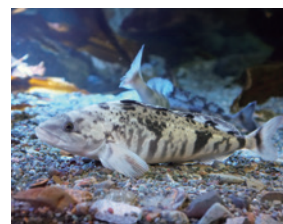
YouTubeチャンネル!

ふらっとらぼ

<https://www.youtube.com/@furalabo>



表紙の写真



カメラ目線でひと休み中のホッケ

撮影場所: おたる水族館

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。